

◎誰もが利用しやすく、市民の安全・安心な生活を守る「防災拠点」としての庁舎の考え方

みんなで地域を「見守り見守られる」庁舎



図1: 四方正面の庁舎のイメージ

どこからでも市庁舎の活動が見え、みんなの絆を実感できるシンボリックな場所性を市庁舎が持つことが重要です。私たちは、四方に開放的な重層する大手デッキの庁舎により、いつも誰かが活動しているのが見えることで安心して利用しやすい空間づくりを行い、市民の参加を誘発します。また、まちのどこからでも見える四方正面の庁舎は、いざという時に頼りになる場所として安心感を市民に与える建築とします。

島原の絆を強める市庁舎 / 市民と行政の距離をなくし、ともに島原を思う活動ができる工夫

①誰でもがわかりやすい空間構成 (わかりやすいフロア構成・平面)

- 1階に市民サービス窓口、2・3階が執務スペース、4階が議会部門と、低層で納めたシンプルでわかりやすいフロア構成です。
- 1階から3階のオフィスのうち、首脳部以外は平面的に同じ位置でオープンフロアとした、開放的でわかりやすい平面構成です。

②低層でサービスしやすい窓口 (見渡せる窓口)

- 市民が利用するフロアは3層しかなく、迷わず目的の窓口が探せます。
- 各階とも窓に面した待合とオープンカウンターにより、来庁者を明るく招き入れ、一目でフロアが見渡せる窓口です。

③多様な市民サービスの対応ができる空間構成 (カウンター外のサービス)

職員がカウンターの外へ出向き、光や風が溢れる心地よい環境の中で市民の相談や打合せができる場を提案します。カウンター内のセキュリティも保たれます。

④自由に使えるフレキシブルな庁舎 (時代の変化にも対応)

片側廊下による各階ひとまとまりのオープンフロアにより、関連部署の業務状況が把握しやすく、また将来のレイアウト変更に対応できます。

⑤すべての人にやさしいユニバーサル庁舎 / バリアを感じない工夫

- 市民が最も利用する1階窓口部門は、県道に面して開放的に設けることで、日頃から誰もがわかりやすい計画です。
- 来庁者用駐車場の約半分はピロティ空間による雨に濡れない駐車場です。
- オープンな1階窓口は、福祉部門など利用者の相談内容に応じてプライバシーを確保できる計画とします。

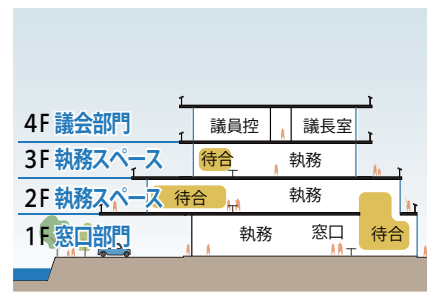


図2: シンプルなフロア構成

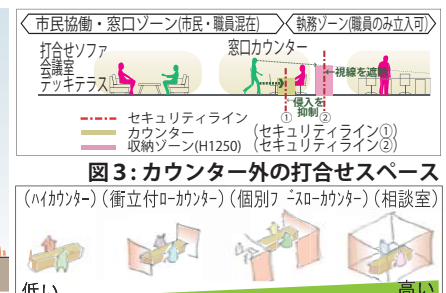


図4: 相談内容に応じたプライバシーの確保方法

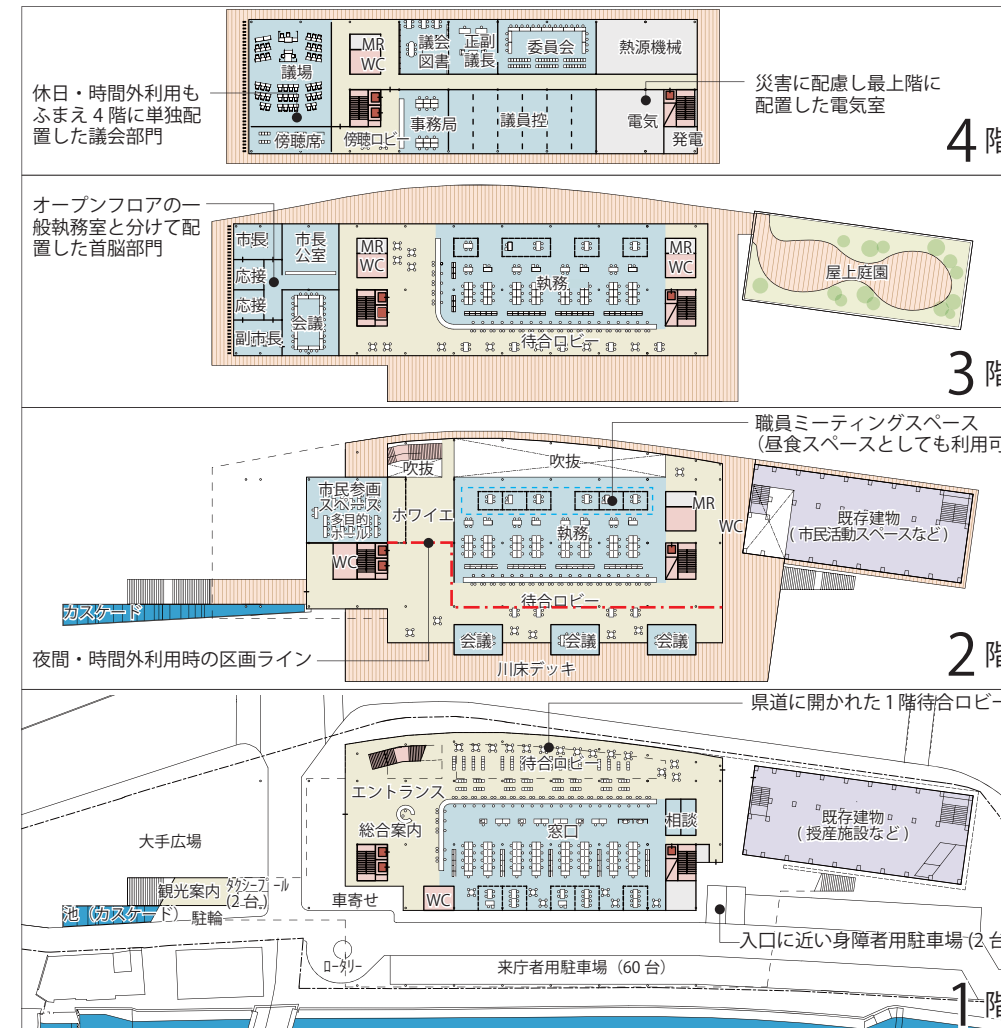


図5: 各階平面イメージ

敷地特性に無理なく対応した鉄骨造の低層軽量安全庁舎 / 軟弱地盤・浸水にコスト最小で災害対応力最大

液状化する軟弱地盤が地下20mまである敷地特性に配慮した、軽量化による地震力低減が可能な鉄骨造を提案します。

①制震構造+CFT柱により安全性とフレキシビリティを確保

コア部分に制震ブレースをバランスよく配置し、地震の揺れを1/3程度減らし、高耐力なCFT柱とあわせ粘り強くします。ロングスパンが容易で効率的なオフィスレイアウトも可能です。

②経済性も高い鉄骨造庁舎

鉄骨造はRC造に比べ経済性も高く、近年の鉄筋、型枠の職人不足に対し、コスト、工期ともに有利で、仮庁舎使用期間も短縮できます。 ※軟弱地盤の免震構造は土地の大幅な地盤改良が必要です。今回は4層と低層ですので免震構造は採用しません。

③建物周辺は地盤改良

建物周辺の広場などは表層地盤改良にて噴砂を防止し、災害時も利用できます。

④ゲリラ豪雨、浸水への対応

近年は想定外の豪雨が多く、ハザードマップ上安全でも油断はできません。1階床面を県道よりも50cm高くし、万一の浸水に備え、また電気室も最上階に配置します。

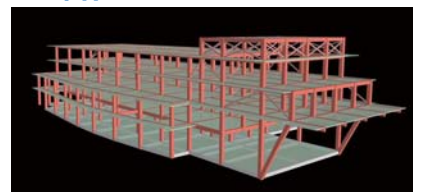


図6: 構造フレームイメージ

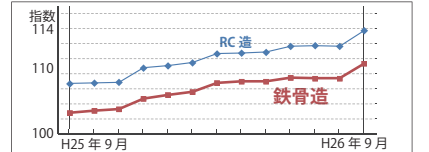


図7: 構造種別によるコスト変動

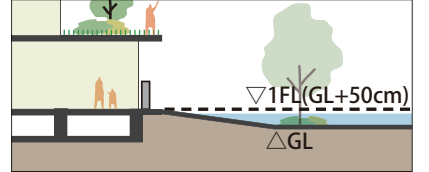


図8: 浸水対応イメージ

災害対応力の強い安全安心庁舎 / 被災直後から確実に機能できる工夫

島原は普賢岳噴火による被災経験があり、復興の実体験をお持ちです。こうした経験も活かしながら、万一の災害時への適切な対応が行える場づくりを一緒になって計画したいと考えます。

①敷地全体を活用した災害拠点計画

■広場の活用

- 「大手広場」は物資の仮置きスペース、屋外での活動スペースとして利用できる計画
- 「まちなか公園」は一部芝生仕上げとすることで、活動時はテント張りの仮設事務所等として利用できる計画

■災害活動拠点となるピロティ

大型車両の進入やボランティアの活動支援

■熱源水槽の活用

噴火災害時などで上水道に加え万一湧水が枯渇しても、約500tの熱源水槽の貯留水を飲用水やトイレ洗浄水として活用

②転用を想定した災害対応機能

■災害対策本部

首脳部の会議室は災害対策本部に容易に転用できる計画

■プレスセンター

広場に面した2階大会議室はプレスセンターとして活用

■災害対策室ゾーン

川床デッキの会議室は自衛隊、機動隊、赤十字などの災害対策室として

■ボランティア受付

広い1階のエントランスホールはボランティアの受付スペースとして

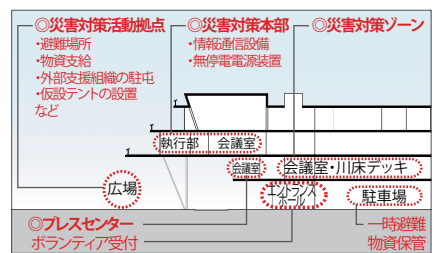


図9: 庁舎の防災拠点化

③災害時の継続的施設利用にむけて

- 重要電源のバックアップ: 非常用電源機と無停電電源装置の併用により万全を期します。
- 発電機の備蓄燃料は3日分確保: 節電モードの設定や電気の有効利用により連続7日間の運転が可能な発電機を採用します。
- 災害時も稼働するトイレ: 浄化槽と湧水を溜めた熱源水槽により災害時にもトイレが使用可能です。
- 通信設備の多重化: 通信設備はメタル配線のほか、衛星通信による通信機能を確保します。

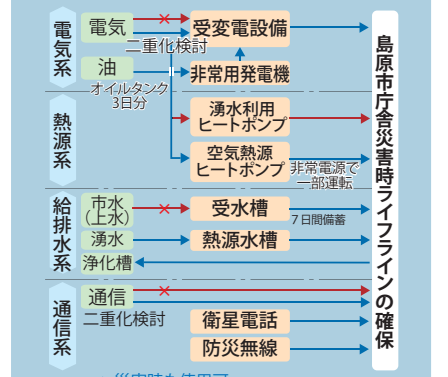


図10: BCP計画

備考

- 提案の範囲は、別紙(2)技術提案書の提案範囲を参照して下さい。
- 提案は基本的な考え方を簡潔に示して下さい。
- 文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ、パース(透視図)は使用できますが、設計内容が具体的に表現された設計図面、模型、模型写真は使用不可とします。提出者を特定できる表現(具体的な会社名等)を記載しないでください。